

トップ電工 株式会社

DX宣言書

2026年3月27日
トップ電工 株式会社
代表取締役社長 藤崎 圭介

□ 経営理念

顧客の創造
社員の生活の向上
社会課題の解決

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ AIを活用した新しい働き方を通じて、人がより創造的な価値を発揮できる環境を構築します
- ◆ AIによる分析と現場の知恵を融合させることで、誰もが経営的視点を持って判断・行動できる「全員経営」を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ~ 2026年12月)

戦略 「AIと働くための土台作り」

- 施策
- ・ 勤怠情報の集計作業にかかる負担を軽減するための勤怠システムの導入を検討
 - ・ AI活用に必要なデータ(例:見積、工程表、会議資料)を整備
 - ・ 営業・現場・経営の一部業務において、業務改善の可能性を探るためのAI活用を試行

➤ フェーズ2(2027年1月 ~ 2029年12月)

戦略 「AI活用による生産性向上と、フラクタル組織の高度化」

- 施策
- ・ 過去の施工データや図面をAIで解析し、ベテランのノウハウを積算精度に反映させるとともに、次世代へ技術をスムーズに受け継ぐ仕組みを構築
 - ・ 過去類似案件や想定原価を自律的に収集・解析するAIエージェントを導入し、見積作成の自動化や失注原因の分析を実施
 - ・ 上記施策により、各現場が経営判断に必要な情報を自律的に活用できるフラクタル組織を構築
 - ・ 書類選考の負担を軽減し、経験者の応募を促進するための採用・選考プロセスをデジタル化

➤ フェーズ3(2030年1月 ~ 2035年12月)

戦略 「DXを継続的成長につなげる組織・経営基盤の高度化」

- 施策
- ・ 案件の進捗状況と収益性を可視化し、経営資源(ヒト・モノ・カネ)を最適に配分できるようにするための仕組みを構築
 - ・ 蓄積された社内データとAI分析を業務に組み込むことで現場の課題を早期に発見・共有し、毎週の改善活動(PDCA)に活用
 - ・ AIが過去トラブルと現在の進捗を照合し、事故・遅延の予兆を早期に検知することで、事故・品質リスクを低減

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ AI活用に必要なデータ整備 : 完了(~2026年12月)
- ・ 受注案件の粗利益率改善 : 5%以上(~2029年12月)